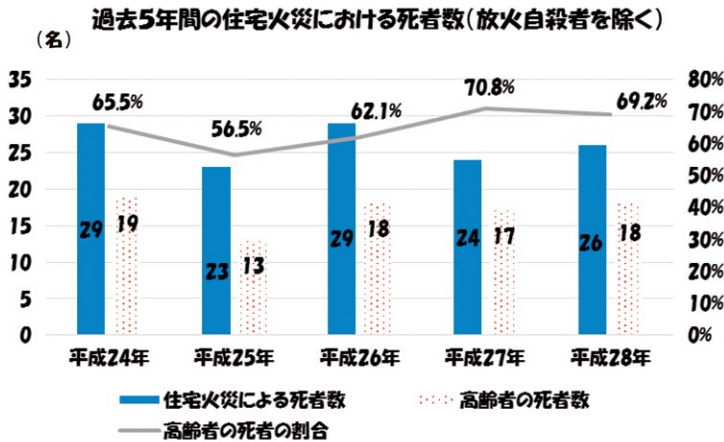


高齢者と火災による死者

予防課

1 はじめに

大阪市内では、平成24年～28年にわたる5年間で住宅火災により131名の方が亡くなっており、その内65歳以上の高齢者(以下「高齢者」)は約65%に当たる85名と高い状況となっています。この理由の一つに、避難することが困難であったことが考えられます。高齢者は若い人のように素早く動くことが難しいので、火災時の避難に時間がかかります。火災を起こさないことが一番大切なことですが、もしもの時のために、早く発見し、スムーズな避難ができるように日頃から準備しておくことが大切です。



2 火災事例

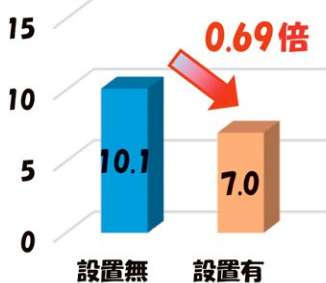
(1) 避難の遅れ

一人暮らしの高齢男性が喫煙中に眠ってしまい、火種がカーペットの上に落ち火災となったが、それに気付かず逃げ遅れてしまいお亡くなりになったもの

(2) 着衣着火

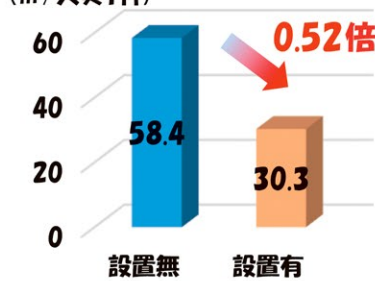
高齢男性が自宅のガステーブルでお湯を沸かしていたところ、ガステーブルの火がTシャツの裾に触れ、火が燃え移り胸部を火傷したもの

住宅火災100件当たりの死者数
(人/火災100件)



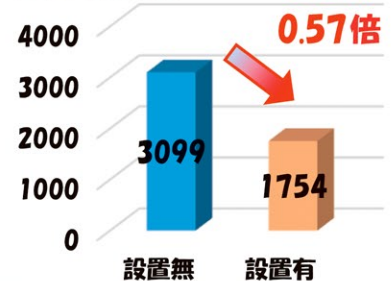
焼損床面積

(㎡/火災1件)



損害額

(千円/火災1件)



総務省消防庁調べ(平成24年～平成26年: 失火を原因とした住宅火災)